

小学5年生の男の子だった。週に3・4回だという。野球一家で母親以外、父や兄、姉も野球をする。この子も学校外の野球クラブに入っていて、毎日のように練習があるようだった。ストレスを感じ易いと母親は言う。

胸、腹を診察した。胸はざわつき熱がこもっている様子だった。お腹は虚していて、ガスが多くやや膨らんでいる。胸の熱に対応して唇は赤く乾燥し、舌先も赤くなっていた。

胸があのような様では確かにストレスを感じ易いだろう。胸は心の場所で、精神的な問題が大きい人は胸における気の滞りが強い。不安があれば、眠りも浅くなるだろう。腎臓は通常、眠っている間は尿を濃縮して、尿量を少なくするが、眠りが浅いとその機能が働かない。その為に夜尿症になっているのだと思われた。

胸には心臓があって常に運動し発熱しているから、気の流れが滞れば、熱くなる。お腹には胃腸があって熱を産生しない水穀が多く、気が滞れば冷えてくる。胸の熱とお腹の寒は一体となって病態が成り立っているわけである。胸の熱が先か、お腹の寒が先かを問うのは意味がない。気の循環が不順で、熱と寒が分離してしまっていることが問題である。放っておくと病態悪化の悪循環に陥る。

胸が熱いと、冷たい水を飲みたくなる。運動をやれば、余計に冷たい水を飲む機会は増えるだろう。胃腸は冷えて、機能が落ち、常に水毒が生まれ増える。水毒からはガスが発生する。

クラブで野球の練習をして遅い晩御飯という生活からも悪影響を受ける。お腹を空かせて、8時近くに腹いっぱい食べ、9時に寝るとすると、胃袋にたくさん残ったままで眠ることにな

る。長い間に胃腸は悪くなる。

お腹の働きが悪くなる程、体内の熱の循環は悪くなって、胸は更に熱くなる。胸が熱くなれば、冷水を飲みたくなる。悪循環である。

胃腸が悪ければ、せっかく食べても身にならないし、元気も出ない。このままでは野球も強くなれない。

さて治療は、滞りを少なくしていくことに尽きる。滞りが減って気が測り測りに流れるようになれば、各臓器は正常に働くようになって、本来のからだになっていく。胸の熱は減り、胃腸の働きが良くなって、熱と寒の分離が減っていく。

通常、小学生には鍼かざし(空中鍼)で治療

しているが、この子は気に対して敏感でない為、軽く刺鍼して治療することにした。

子供のストレスは親子関係に関連している場合が多く、またそうでなくても、親子の触れ合いがストレスを減らしてく

れる。付き添いの母親には家で簡単な指圧とストレッチを頼んだ。指圧やストレッチ自体に効果を求めたのではなく、触れ合いの効果を期待したのである。

週1回の治療をして、1ヶ月経った頃には、胸のざわつきは無くなっていた。その頃、学校の野外活動で宿泊する為、その直前の治療を希望されて、治療した。果たして、だいじょうぶだったのかと思っていたが、子供の前では聞けない。付き添いの母親も治療するようになっていたので、子供が来られず、母親だけが来た時に聞いてみると、だいじょうぶだったということで安心した。1ヶ月半経った頃、「ほとんど、だいじょうぶ」ということだったが、胃腸の弱さや胸の滞りを改善する為、更に3回治療した。

(2012年3月啓塾)

